

6月米雇用統計、大幅利上げ継続を示唆

ポイント① 雇用の伸びは堅調

7月8日に発表された6月の米雇用統計によれば、非農業部門就業者数は前月比で37.2万人の増加となり、市場予想の26.5万人を上回りました。失業率は4ヵ月連続で3.6%となり、概ね完全雇用の状態を維持しています。平均時給の伸びは前年同月比+5.1%と高い水準で推移しています。足元の雇用者数はパンデミック前（2020年2月）から52.4万人減少していますが、民間部門だけを見ると14万人増加しており、米国の雇用は着実に回復してきていると考えられます。

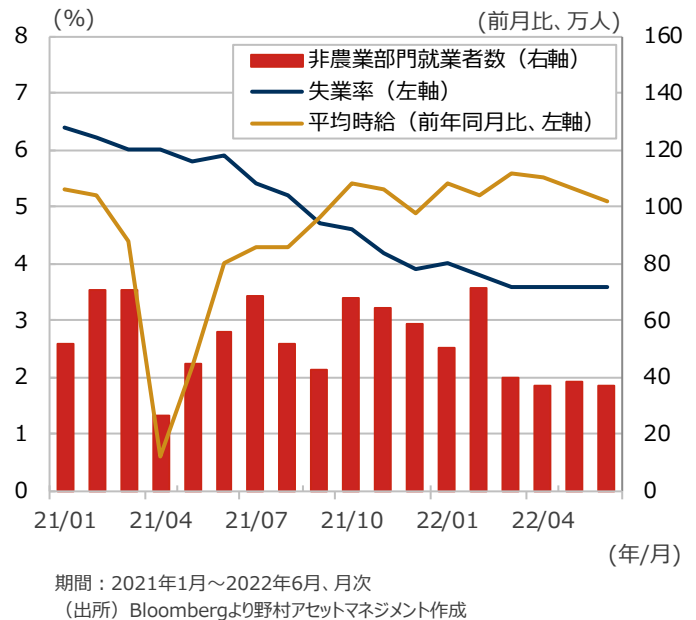
ポイント② 企業は人手の確保に苦勞

今回の雇用者数の増加は、主に娯楽・ホスピタリティ業界、ヘルスケア業界などで見られました。また、製造業の雇用は2.9万人増加し、パンデミック前の水準まで回復しました。しかし、企業では依然として人手不足の状況が続いています。6月の米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数の雇用指数をみると、製造業、非製造業ともに景気の拡大・後退の分岐点である50ポイントを下回っています。今後も人手確保に向けた賃金上昇によるインフレには警戒が必要です。

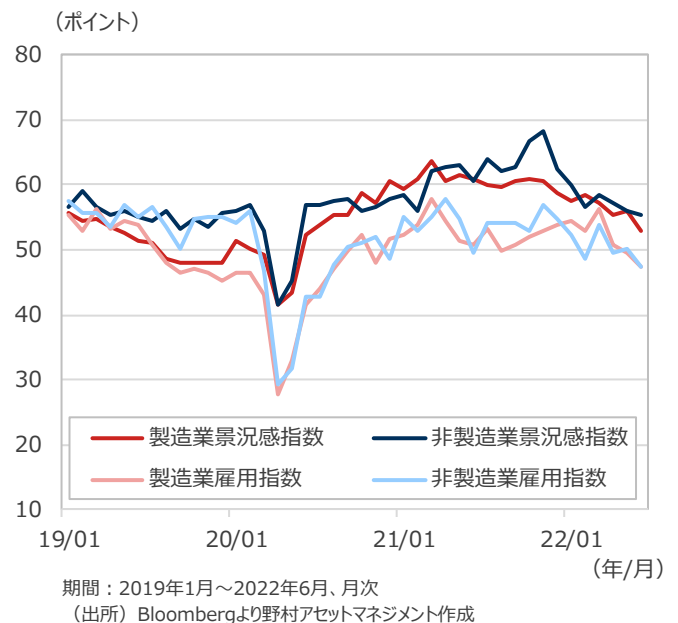
ポイント③ 今後も大幅な利上げが継続か

今回の雇用統計は市場の予想を上回り、米国の景気後退懸念を和らげる材料の一つとなりました。今月のFOMC（米連邦公開市場委員会）では前回会合に続いて0.75%の利上げが行なわれる可能性が高くなったことなどから、7月8日の米10年債利回りは前日比で0.09%上昇しました。良好な雇用統計と高水準のインフレを踏まえた、米国の金融政策動向には引き続き注目です。

米失業率・平均時給・非農業部門就業者数の推移



米ISM景況感指数と雇用指数の推移



重要 イベント	7月13日	米消費者物価指数（6月）
	7月15日	米ミシガン大学消費者信頼感指数（7月、速報値）